

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.34 2019.3.22

外国語教育研究所は群馬県における外国語教育の拠点として、外国語教育の充実、地域社会への貢献、グローバル人材育成及び国際交流の促進に寄与することを目的にさまざまな事業に取り組んでいます。

グローバル人材育成事業「明石塾」

【修了式】

3月2日、明石塾修了式が本学で行われ、21人の塾生に修了証が授与されました。小林塾長は、国際社会及び国内社会で活躍する3つの力として、長期的かつ短期的目標において考えたらすぐに行動する思考・行動力を持つこと、目の前にやってきたチャンスをつかむ挑戦力、失敗しても立ち上がるレジリエンスについて式辞で述べました。塾生を代表して前橋高校1年小林雄太さんは、「明石塾を修了した今日が新たなスタートラインであり、意見を堂々と発言する活動や異文化及び国際情勢について理解を深めた経験など、明石塾で培ったスキルをもとにグローバル人材になるべく、不断の努力を重ねていきたい」と答辞を述べました。



小林良江塾長



答辞を述べる小林雄太さん（前橋高校）

明石康氏講義

2月2日、初代塾長の明石康氏による英語講義が行われました。日本の国連加盟が承認された翌年に日本人初の国連職員となった明石氏は、学生の頃から知的好奇心が強く、国際問題にも関心があったことを話していただきました。国連で多国籍の職員と共に働く心がけとして、自分の意見を主張する前に相手の意見をよく聞き、お互いを尊重するように努めたことを語りました。国連で最初の任務となった1960年代のタイとカンボジア紛争の体験に触れ、関係修復を望まない両国に友好関係を奨励できても強制はできない国連の現実的な制約について言及しました。また、明石塾の卒塾生の中にJICAなど世界を舞台に活躍している人材がいることを賞賛しました。日本人は内向き指向で言葉の壁に対する恥じらいが強いが、ぜひ外国への関心を持ち、外国語習得にかかる時間を惜しまずに、たゆまぬ努力をして欲しいと塾生達にエールを送りました。



明石康氏と塾生



明石康氏

研修報告 (10月～3月)

明石塾では後半のスケジュールを次のとおり実施しました。英語研修は本研究所の外国語研究員が行いました。

日付	午前 10:00～12:30	午後 13:30～16:00
10月13日(土)	英語研修 Environmental Issues and Deforestation	東京フィールドワークまとめ、 テーマ討論②
11月10日(土)	英語研修 Climate Change	公開研修プレゼンテーション準備
11月17日(土)	英語研修 Problems Facing the World in the 21st Century	[講義](公開)高見澤 恵理氏 (朝日新聞社(明石塾2期生))
12月1日(土)	英語研修 United Nations	海外研修準備(事前研修)
12月8日(土)	英語研修 Japan's Aging Society	海外研修プレゼンテーション準備
1月4日(金) ～10日(木)	マレーシア、シンガポール海外研修 (学校訪問、企業訪問、フィールドワーク、ホームビジット等)	
2月2日(土)	英語研修 Debrief on Malaysia and Singapore	[講義]明石 康氏 英語講義
2月9日(土)	英語研修 Globalization	研修まとめ、 成果発表会準備
2月16日(土)	研修まとめ、 成果発表会準備	研修まとめ、 成果発表会準備
3月2日(土)	成果発表会準備	研修成果発表会(公開)、 修了式(公開)

公開講義

11月17日、朝日新聞社記者の高見澤恵理氏(明石塾第2期生)を招いて、「グローバルとローカルをつなぐ生き方」という演題で公開講義を行いました。育児でご多忙の中、多数の資料を用意していただき、「記者の仕事」「キャリアの築き方」「グローバルとローカルをつなげる」「塾生へのメッセージ」の4部構成で講義をして頂きました。明石塾での学びにより国際関係学を大学で専攻し、そのバックグラウンドを社会的課題の改善や活動の支援へどのように生かしてきたのか、ご自身の体験を興味深く語っていただきました。



高見澤恵理氏(朝日新聞社記者)

塾生の感想 Y.H.さん

高見澤さんの塾生へのメッセージの中で「挑戦」「継続」「出会い」などのキーワードが印象に残りました。明石塾では、同じ志を持った仲間達と多岐の分野にわたって話をする事ができ、本当に良い出会いができました。高見澤さんのように「明石塾に参加したから、今の自分がある」と言えるように、さらに精進したいと思います。「学歴ではなく、人間力を磨く」という言葉を聞き、人間力もいろいろな人との出会いや雑談、また旅で見聞したことによって高まっていくと思いました。「失敗を通して自分が成長する」ともおっしゃっていたので、多くのことに挑戦し、失敗や成功を繰り返しながら、理想の自分を追い求めていきたいです。

海外研修

塾生の感想 ～農村でのホームビジットを体験して～
N.S.さん

日本の文化紹介で着物の写真を見せたときに、現地の方に「私たちの民族衣装も着てみる?」と聞かれ、思わずマレーシアの民族衣装を試着させてもらいました。現地の方と一緒に服を着ることで、受け入れてもらえたような喜びを感じました。「相手の文化を知りたい」だけでなく、自国の文化について正しい知識を持ち、お互いの文化を知る喜びを共有できるようになりたいと思いました。会話の中で大切だと思ったことは、英語が母国語でない方と話す際ゆっくりジェスチャーを交えて話すこと、そして相手の母国語であいさつをするなど、簡単な言葉を覚えて使うことでした。マレー語で簡単な自己紹介をしたときに喜んでくれたので、お互いの心が通うのに重要なことだと気づきました。



マレーシアの民族衣装を試着する塾生



マレーシア・ピューター工場

成果発表会

3月2日、成果発表会で塾生一人一人が7か月間の研修で学んだことを英語で発表しました。英語研修、夏休み集中講義、テーマ討論、明石康氏講義、県内外フィールドワーク、海外研修で学んだことを紹介しました。異文化理解や世界情勢についての理解が深まり、あらゆる角度から物事を見る複眼的な視野が培われたことを伝えました。



発表風景

明石杯高校生英語コンテスト

11月16日、本研究所では群馬県教育委員会、群馬県高等学校教育研究会英語部会との共催で明石杯高校生英語コンテストを開催しました。県内予選を通過した82名が出場し、日頃の練習の成果を競い合いました。コンテスト終了後は、Fari Nguyenさんから“Diversity in Food Culture”という演題で講演がありました。各部門の入賞者は次のとおりです。



各部門の優勝者

〈特別賞〉

順位	部門	レシテーション	スピーチ第1部	プレゼンテーション	スピーチ第2部
1位		星野 騎士 (四ツ葉学園 4年)	マエダ ルアナ リカ (前橋西 2年)	嶋田 豪 (中央中等 5年)	金澤 有明 (ぐんま国際 2年)
2位		山本 岬 (高崎北 2年)	生方 那奈 (共愛学園 3年)	町田 祐里奈 (四ツ葉学園 5年)	アリ ラレブ (伊勢崎商業 1年)
3位		山田 羽妙 (太田女子 1年)	二渡 真子 (太田女子 2年)	木檜 里穂 (渋川女子 1年)	兵藤 元哉 (共愛学園 3年)
4位		石井 響子 (共愛学園 1年)	初山 沙輝 (樹徳 1年)	齋藤 未歩 (高崎女子 1年)	
5位		長岡 美希 (富岡 2年)	田村 優成 (中央中等 4年)	能祖 遥一 (中央中等 5年)	
6位		大澤 果歩 (市立前橋 1年)	小椋 美佳 (高崎女子 1年)		

レシテーション
原澤 良樹 (利根実業 3年)
スピーチ第1部
北爪 智佳子 (中央中等 5年)
プレゼンテーション
後閑 虹歩 (桐生第一 2年)
スピーチ第2部
高橋 芽依 (高崎女子 1年)

留学支援事業

1月21日に春季短期海外研修参加者向けに群馬県親善学生大使委嘱状交付式が行われました。小林学長は、「研修先の文化を知るために積極的に一步前に進む姿勢が留学を成功させる秘訣であり、その体験が人生の宝物になる」と激励の言葉を送りました。文学部英米文化学科2年永井和さんは学生代表決意表明で、「地元の伊香保温泉の魅力や群馬の名産物について紹介したい」と意気込みを語りました。

本年度、104人(内訳:短期海外研修61人、長期留学43人)の学生が本学の「海外留学支援プログラム」(短期海外研修者上限20万円、長期留学者上限40万円奨励金支給)を利用し、異文化理解と語学の研鑽に励みました。同時に学生は群馬県親善学生大使を委嘱され、留学先の大学などで群馬県や本学をテーマにプレゼンテーションを実施しました。



群馬県親善学生大使委嘱状交付式で挨拶をする永井和さん(文学部英米文化学科)

県立女子大生の留学体験談

短期海外研修 HIS ホーチミン支店 インターンシップ(ベトナム) 国際コミュニケーション学部3年 M.M.

私がインターンシップで学んだことは、まず相手の立場になって物事を考える大切さです。群馬県親善大使活動の時に、ベトナム人スタッフからプレゼンで話した内容以外の質問を多く受け、彼らは花やショッピング、ドラえもんなどが好きであることを知りました。聞く人が満足できる興味のある内容を意識し、さらにクイズなどを取り入れて発表するべきだったと反省しました。旅行業では、自分たちが考えたツアーの魅力を限られた時間で最大限に伝えるために事前調査が重要であることを認識しました。また、グループでプロジェクトを考えていくうちに、自分たちが良いと思った活動が、ほかの人は全く興味がないことに気づき、スタッフの意見や事前調査を参考にし、自分たちのアイデアを見直しました。このインターンシップを通して、アドバイスや意見をもらうことの大切さも学び、貴重な経験となりました。



群馬県の紹介場面

長期留学 マントバ大学(カナダ) 文学部英米文化学科3年 R.D.

カナダへ9か月間語学留学をし、まず自分の英語力に悩みました。移民局で会話がうまくできず、かなり時間がかかりました。今思えば、当時の私は全く自分の英語に自信がなく、話すことに臆病になっていたのです。しかし、自分から言わなければ何も伝わらないため、間違えを恐れずに自信を持って発言する大切さを痛感しました。授業では意見を持っていても、言わなければ意味がなく、常に発言するのが当たり前でした。カナダでは、他人の意見に迎合するような付き合い方をしないので、意見の食い違いは日常茶飯事でしたが、一方で自分の意見を伝えるという心構えが話す自信に繋がりました。

カナダは国籍や宗教において多様な多民族国家で、外見や英語の稚拙さを理由に態度を変える人はいませんでした。他人と自分が違うのは当たり前で、その違いを前向きに受け止める国民性が私にとって大きな学びでした。留学によって自分を客観視し、人間的にも成長できたと思います。



キャンパス内にて

高等学校連携英語授業

本研究所は「2009 英語能力の向上に関する提言」の中で、「4 技能の調和のとれた総合的英語能力の育成」や「英語学習の動機付けと環境づくり」を提言し、プレゼンテーション、ディスカッションなどの言語活動を重視した授業を高校と連携して実践しています。

本年度は県立沼田女子高等学校、高崎市立高崎経済大学附属高等学校、県立伊勢崎高等学校との連携により、これら提言実現のためのモデル授業を提供しながら研究実践を行いました。その他、県立高崎女子高等学校との連携で国際理解教育及びグローバル・リーダー養成ワークショップ、県立中央中等教育学校と連携し多文化理解授業、県立高崎高等学校と連携しディベート講座など、各校の個別授業支援も行いました。

高大連携英語教育事業についてのお問い合わせは研究所までご連絡下さい。



伊勢崎高校



中央中等教育学校



高崎女子高校



沼田女子高校

県民英会話サロン「グローバルカフェ」

本研究所の外国語研究員 6 名と一緒に英会話を楽しむ「グローバルカフェ」を毎週木曜日夜(90分)年間 29 回、高崎市総合福祉センター(5月～7月)と本学(9月～3月)で実施しました。高校生、大学生、社会人、海外勤務経験のある方などさまざまな世代・職種の方たちが参加し、英語で意見交換や情報共有を楽しみました。

第 2 期最終日の 12 月 13 日には「カフェスペシャル」を開催しました。ゲストプレゼンターに群馬大学大学院生ガブリエル・ボンドンさんを招き、「宇宙工学」というテーマで、日本の宇宙探査機「はやぶさ」の仕組みや科学技術開発について語っていただきました。みなさん興味深そうに聞き入り、プレゼン後にも多数の方が英語で質問をしていました。



「カフェスペシャル」で質問を受けるガブリエル・ボンドンさん

平成 31 年度の開催については 4 月以降本学のホームページでご案内する予定です。どうぞ引き続き多数のご参加をお待ちしております。また、小学校、中学校、高校に勤務している A L T の方もぜひご参加下さい。